



螺 旋

学年主任 菱池 美保

数学界でも『アルキメデスの螺旋』と名付けられた曲線があります。(これはちょっと難しい)。蚊取り線香のような曲線です。『螺旋』という言葉は、運動性や生命力を感じさせる面があります。基本的には繰り返しの構造でありながら、決して同じ位置をたどらず、無限に上昇する構造を、例えば歴史や生命になぞらえています。

さて、みなさんの高校生活もまさに螺旋階段。淡々と繰り返される日常は少しずつ上昇を続け、いま、その 1/3 を終えたところです。ここまで順調に上れましたか。忘れてきたものはありませんか。重いからと、途中で置いてきたものはありませんか。もう二度と戻れることはありませんが、この辺で少し下を振り返ってみましょう。

探究活動『わがまちのSDGs』発表会



1月30日(火)6・7限、総合的な探究の時間に半年間にわたって取り組んだ活動「わがまちのSDGs」の全体発表会を行いました。

この活動の目的は、① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること。② 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること、としました。また、普段の授業では身につけられない力を身につけるとともに

に、仲間と協力して一つのプロジェクトを完成させる貴重な経験となることを期待して始めました。

クラスの枠を超えた班編成により、話をしたことがないもの同士がコミュニケーションをとることから始まったこの活動、最初みなさんの中には不安を感じている人も多かったようです。しかし、回を重ねることで次第に打ち解け、仲間意識が生まれ、積極的に意見を出し合い、討論する姿があちこちで見られました。



代表班による全体発表会は予想以上の出来栄となりました。調べた情報と、それをもとに自分たち独自の考えをうまく組み込み、聴衆に訴えることのできる高校生らしい内容に仕上がっていたと思います。半年とはいっても実際は時間に追われ、本当に出来上がるのかどうかも不安だらけでしたが、放課後残ってやったり、個人では家に帰ってからこつこつ進めたりと、一人一人が責任感を持って仕上げた成果です。

それともうひとつ、質疑応答でみなさんから非常に多くの質問が出たことは本当に素晴らしかった。感心したと同時に、一年生の一大イベント、『探究発表』を通してみなさんは確実に成長できたと思いました。

全校読書会 1月31日(水)

3組 女子

この読書会を通じて、出会った本がある。「ライオンのおやつ」という小説だ。この小説はがんになって寿命が短い主人公と、ホスピスで出会った数々の登場人物による、どこか自分の生きる勇気もらえる感動的な一冊だ。「最後に食べたいおやつは？」という問いがあった。私は「今までに食べたおやつ」と答えたが、「最後に祖母と食べたおやつ」という人があった。とても素敵な意見だと思った。授業の時間以外でも物事について考え、自分の意見を発信し、他の意見を取り入れることで新たな考えが広がっていくのはとても大切だと思った。これからはもっと積極的に意見交換をしたいと思った。

1組 女子

自分の好きな本について人の意見に触れることができ、自分では考えられなかった主人公の思いや、情景描写を感じることができました。私の考えている結末はたくさんの結末の中の一つにすぎず、もっと明るい話にすることもできれば、暗い話にすることもできると気づけたのでうれしかったです。

マラソン大会

2月7日(水)晴天の下、マラソン大会が行われました。男子8.5km、女子4.5km、坂道の多い学校周辺コースを1、2年生約370人が駆け抜けました。1年生の参加者全員が完走し、すがすがしい笑顔でこの一日を終えられたこと、とてもよかったと思っています。

特に、もうあきらめたい、もう歩きたい、と思いながらも最後まで頑張った「マラソンは大の苦手」諸君、やりとげましたね。来年のマラソン大会に向けても、また体力を蓄えておきましょう。何事も持久力が大事、そして最後は体力勝負ですから。

2023年度 マラソン大会 BEST10

<男子の部>

- | | |
|-------------|-------------|
| 3位 山本琴也(5組) | 1位 四井来夢(3組) |
| 4位 岩本隼人(5組) | 4位 岡本美海(1組) |
| 5位 内海璃久(4組) | 9位 尾垣日咲(4組) |
| 6位 原田直弥(4組) | |
| 8位 高森陽太(3組) | |
| 9位 山下楓翔(3組) | |

<女子の部>



球技大会

学年末考査が明けた3月4日（月）、後期球技大会が開催されました。2年生には歯が立たないのかと思いきや、あちらこちらで大活躍。このクラスでチームが組めるのも最後とあってか、団結力はなかなかのものでした。



また、バレー部の部員がバレーで、サッカー一部の部員がサッカーで、それぞれの技術を披露してくれるのも球技大会の一つの醍醐味です。勝敗とは別のところで、思わず「拍手」を送りました。

＜1年生の成績＞			
男子サッカー	3位	1－3	
女子サッカー	1位	1－2	
女子バレー	1位	1－1	
	2位	1－2	

岡山大学研究室訪問

3月1日（金）、自然科学コース（5組）の11名が岡山大学工学部環境・社会基盤系研究室を訪問しました。最初に工学部の歴史や教育理念についての講義を受け、その後4つの研究室に分かれて研究体験をしました。内容は専門的でなかなか難しかったものの、現役学生さんとの懇談会では大学生活の話などをいろいろと聞くことができ、大変有意義な経験となりました。（詳しくは相生高校HPに掲載しています）



5組 女子
この研究室訪問を通して、今まで工学部というものをあまり知らなかったけれど、ものを生み出すというのは様々な分野が関わっているということを知りました。今後、進路を考えていく上での新しい選択肢になりました。とてもよい経験だったと思います。2年生になって、様々なオープンキャンパスに行ってみたいと思うようになりました。

5組 女子
自分が想像していた以上に理系の研究でも文系分野の知識が必要になってくるのだなと思いました。今のうちに平等に勉強しておくべきだと改めて感じました。また、大学は細かい専門の分野一つだけを学ぶというイメージがありましたが、実際に話を聞くと違っているようで驚きました。今できることを精いっぱい頑張ろうと思います。

進研模試を振り返る

大学入試共通テストが行われた1月13日（土）、1年生は今年度3回目の進研模試を受検しました。今年の共通テスト受験者は最も多い英語で476,174人、1年進研模試受検者が約45万人、受検者層を考えると進研模試の信憑性はかなり高いといえます。

47回生の成績は、7月模試、11月模試、1月模試とほぼ横一線、全国偏差値で0.1ないし0.2程度上昇しました。もちろん、成績上昇は簡単なことではありません。全国の高校生も努力していますから、その中でさらに上回る努力が必要ということになります。ですが、みなさんはまだまだ勉強の絶対量が足りていません（…やっている人もいるが…）。

家庭での時間をどう使っているのでしょうか。遅い時間まで起きていて、何をしているのでしょうか。「高校生の間に楽しんでおきたいことがある」と、返してくる人がいます。楽しむことを否定はしませんが、少しとらえ方が違うのではないのでしょうか。

高校生がなぜ勉強しなければならないか、それは学校でやっている国語や数学といった教科の勉強は皆さんの年齢でなければ意味がないからです。みなさんは今、勉強するということに関して決定的な年齢です。もちろん、われわれ大人たちがそのような勉強をしてもかまいませんが、勉強することの根拠があるのは大人ではありません。学ぶことの根拠に日々触れているのはみなさんです。一見偏差値にこだわりますが、実はそうではなく、みなさんの年頃でしか直面できないような深い問題が勉強するということの根拠にはあると思うのです。

ですが、高校生である以上、勉強することの差し当たっての意味は大学受験です。志望校に合格することを目標としなければなりません。

先日の進路講演会でも、「2年生が最も大切な一年」という話がありました。中だるみと言われがちな2年生、言葉通り本当に緩んでしまうか、手綱を引き締めて努力を続けるかで2年後の進路が大きく違ってくるからです。「高校生の間に楽しんでおきたいことがある」と言った人、高校生の間にしておかなくてはならないことは「勉強」です。毎日、一つでも多くの英単語、一つでも多くの古文単語を覚えてください。

新入生のお手本となれ

いよいよ4月には後輩となる1年生が入学してきます。みなさんには、毎日の高校生活に重要な任務が追加されます。新入生のお手本となることです。新入生はまず先輩たちの行動を観察し、相高でのふるまい方を習得します。中でも、一番の基本はあいさつです。昨年の春、校内のどこで出会ってもよくあいさつをする上級生の姿に感心しました。その上級生を見習ってか、みなさんも大体はできています。でも、いまだに廊下ですれ違ってもわざわざ顔をそらして通り過ぎる人がいます。きっとコミュニケーションをとるのが下手なのでしょう。でも、それではだめです。気に入らない人でも、大嫌いな人でもあいさつはする。相手より先にする。これが基本です。

その他、制服の着こなし方、携帯電話のルール遵守など学校生活のすべてにおいて、「2年生のように行動しなさい」と言ってもらえるよう、品位ある立ち居振る舞いを心がけてください。「相生高校に入学してよかった」と新入生に言ってもらえるよう、先輩としての責務を果たしましょう。